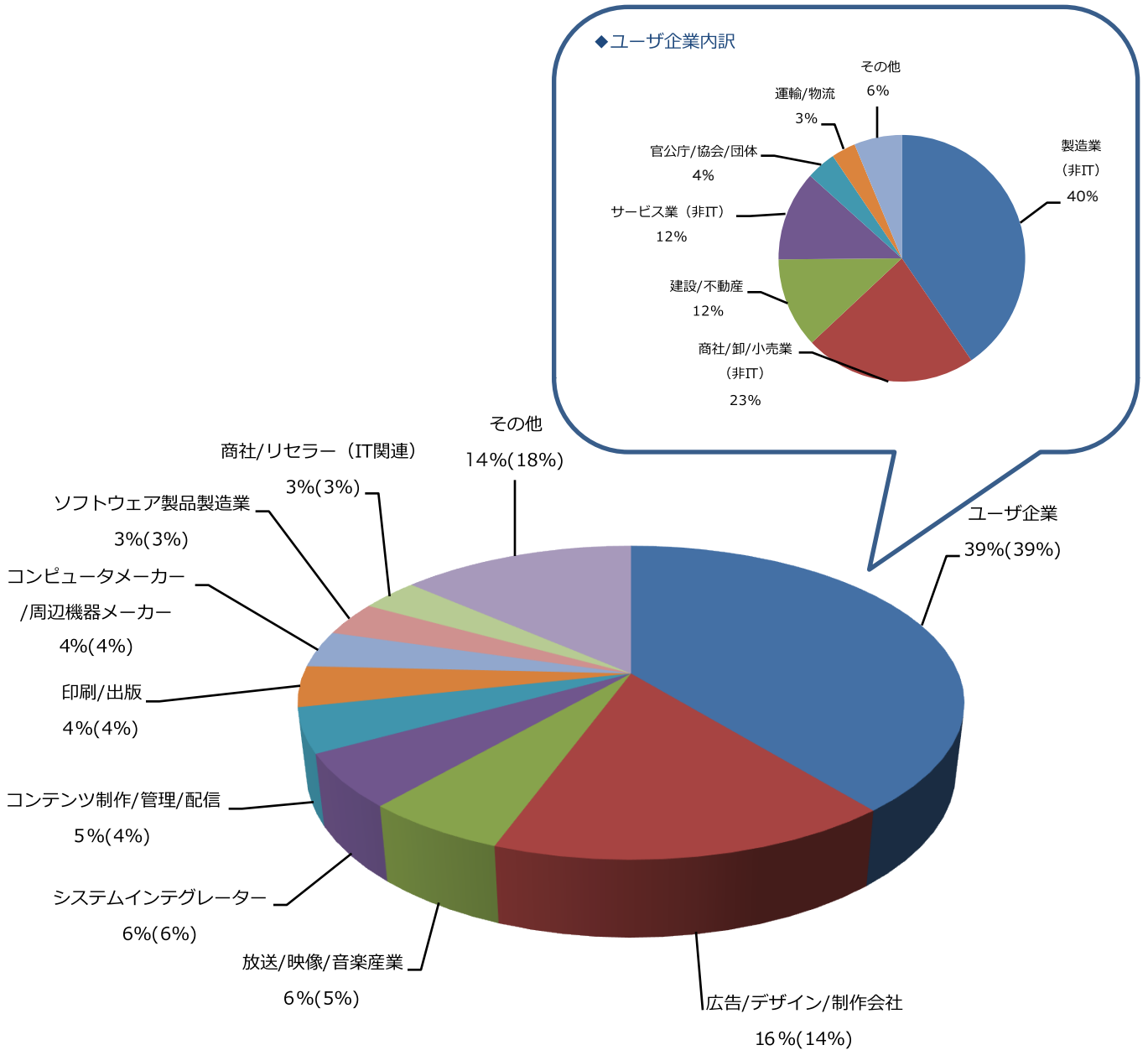


## 業種

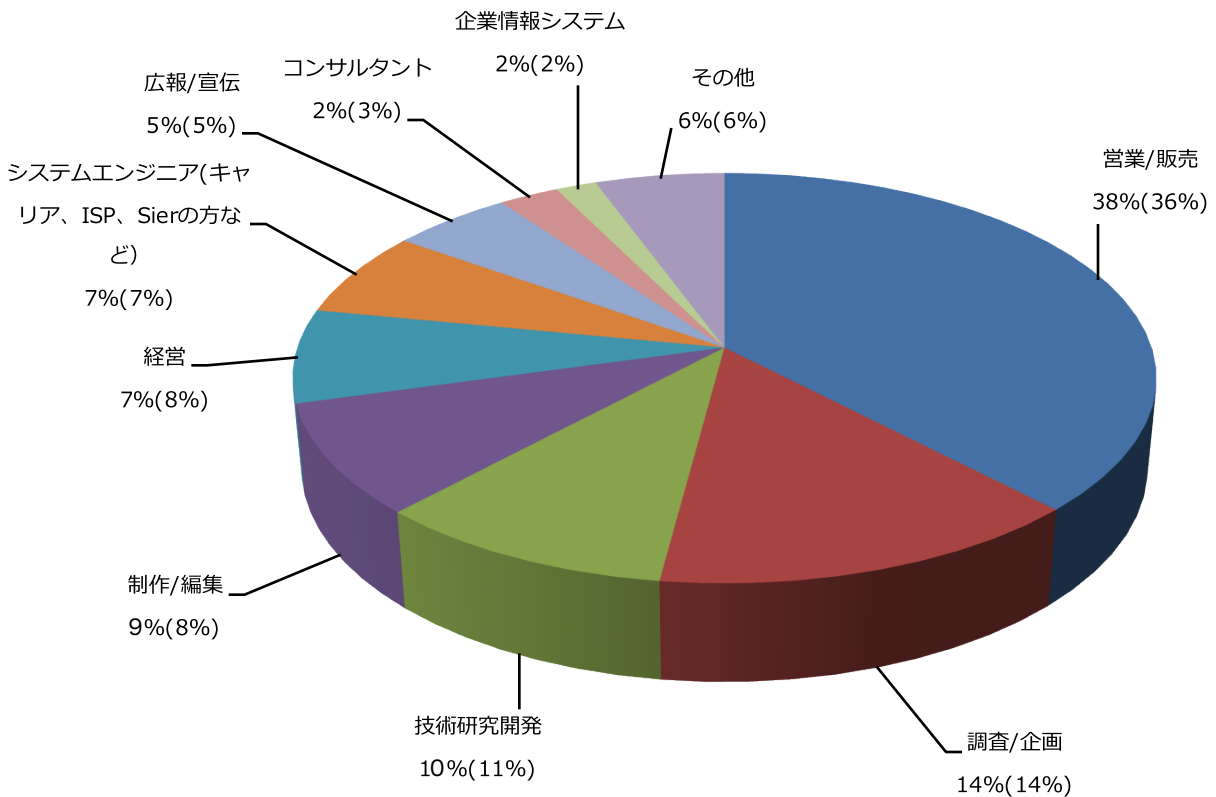
業種では、デジタルサイネージを実際に活用する立場にあるユーザー企業が最も多く、次にデジタルサイネージの導入、活用を進める広告/デザイン/制作会社が続く結果となった。



※ ( ) 内は昨年実績

**職種**

職種では、営業/販売が最も多い。ここからデジタルサイネージが新たな営業・販促ツールとして注目されていることがわかる。また、それに次いで調査、企画職の来場者が多いことから、マーケティングツールとしてのデジタルサイネージが注目されていることがわかる。



※ ( ) 内昨年実績